

6-1-4 材料

視覚障がい者誘導用ブロックの材料としては十分な強度を有し、歩行性、耐久性、耐摩耗性に優れたものを用いるものとする。

視覚障がい者誘導用ブロックは、現在種々の材質のものが市販され、また、実用化されているが、その選択にあたっては、歩行性、耐久性、耐候性、施工性、経済性、維持管理等を十分考慮しなければならない。特に滑りやすさは歩行性と密接な関連を持ち、路面が滑りやすいと歩幅が狭くなり必要以上に筋肉を使って疲労しやすい。

また、周辺路面との材質の違いを認知の助けとしている方もいる。

このため、溶融式など、アスファルト骨材やインターロッキングの目地・材質等が点地面に浮き出る材質・施工方法によると、質感の差異が小さくなるため、認知が難しいという意見がある。特に透水性アスファルトなどの開粒度骨材を使用している場合には、視覚障がい者誘導用ブロックの突起と骨材の凹凸の判断が非常に困難となると聞いている。

さらに、視覚障がい者誘導用ブロックの材質により認識しやすい靴を履き分ける人もいるため、**特別の事由がない限り、コンクリート製を使用しなければならない。ただし、セラミック製など、強度・耐久性・耐摩耗性に優れ、質感がコンクリート製と同等のものについては、採用してよい。**